



2024.05.01

報道関係各位

アストンマーティン ジャパン

## アストンマーティン・レジデンス・マイアミが公開 ウルトラ・ラグジュアリー・ブランドが手掛ける 初の不動産開発プロジェクトが完成

- 英国が誇るウルトラ・ラグジュアリー・ハイパフォーマンス・ブランドのデザインによる 66 階建てのアストンマーティン・レジデンスは、ニューヨーク以南で最も高い建物
- マイアミで最も理想的で憧れの的となるような立地に、391 戸の最高級コンドミニアムは位置し、マイアミ川が注ぐビスケーン湾を望む
- アストンマーティン初の住宅設計および建設プロジェクトは、完成前にコンドミニアムの 99% が成約
- 入居者はアストンマーティンのデザインチームのサポートのもとインテリアコーディネートが可能で、ホームオーナーの 8 人に 1 人が既にアストンマーティン車を所有



2024年4月30日、フロリダ州マイアミ（米国）：

アストンマーティンは、フロリダのベイエリア屈指のスケールと魅力を備えた立地にそのアイコン的なブランドと卓越したデザイン技術を注ぎ込んだ、同ブランド初の超高級不動産開発プロジェクト アストンマーティン・レジデンス・マイアミの完成を祝しました。

世界的な不動産デベロッパーの**G&G Business Developments**とのコラボレーションにより**300 Biscayne Boulevard Way**に建設したアストンマーティン・レジデンス・マイアミの公開が、**F1@Crypto.com**マイアミ・グランプリの開催週に発表されるという、ウルトラ・ラグジュアリー・ハイパフォーマンス・ブランドであるアストンマーティンならではの演出となりました。

誰もが憧れるマイアミのウォーターフロントを舞台に展開する同プロジェクトは、超高級住宅の購入希望者の間で絶大な人気を博しました。実に、総戸数**391**戸のコンドミニアムのうち**99%**が、完成前に成約済みとなりました。自動車愛好家のみならず、アストンマーティン特有のデザイン哲学とアイコンックなブランドに魅力を感じる層をも惹きつけ、居住者の**50**世帯以上が既にアストンマーティンオーナーとなっています。

アストンマーティンが誇るデザインチームと、**Bodas Mian Anger (BMA)**の世界的建築家ロドルフォ・ミアーニが共同で設計。コンドミニウムとアメニティスペースは船の帆を模した大胆な外観となっていて、海辺の雰囲気醸し出しながら、ビスケーン湾やマイアミ川、そして刻々と変化するダイナミックな街のスカイラインによる壮大なパノラマビューが目前に広がります。

アストンマーティン・レジデンス・マイアミは、エントランス・ロビーに足を踏み入れた瞬間にアストンマーティンのスポーツカーの精神や高揚感を感じられるようデザインされています。英国を代表する同ブランドのデザインに息づく**DNA**と精緻なクラフトマンシップを象徴しており、それは見事に洗練された共用スペース全体に表れています。共用スペースは、アストンマーティンがウォリックシャー州ゲイドンに構える最新のデザインスタジオで丹念に設計されました。

同ブランドのエグゼクティブ・バイスプレジデント（**EVP**）兼チーフ・クリエイティブ・オフィサーであるマレク・ライヒマンは次のように語っています。「魅惑的なデザイン美学と、ウォーターフロント地区最後の空き区画に位置する最も理想的なロケーションを融合したウルトラ・ラグジュアリーなアストンマーティン・レジデンスは、表情豊かなマイアミのスカイラインを以前にも増して際立たせる存在となっています。私たちは、世界中で開発が進む高級住宅のデザインをこのプロジェクトが新たな次元に引き上げたと考えています。」

また、「当社のデザインに関する知識とクラフトマンシップをこのような大規模なプロジェクトに役立てることができたことに満足しています。こうした挑戦を通して、アストンマーティンはクリエイティブな経験や知識をさらに積み上げ、ウルトラ・ラグジュアリーな世界の新たな側面を切り拓き 既存と新規両方のお客様へアピールすることができるでしょう。」とも述べました。

さらに同氏は、「私たちのデザイン言語は美しさと誠実さと、そして調達する資材の信頼性に

基づいています。アストンマーティン・レジデンス・マイアミは、極上の品質とクラフトマンシップを重んじる人のために、つまりは時代を超えても色褪せない感覚を大切にするお客様のために設計しました。ブランド初の住宅開発プロジェクトとなりますが、アストンマーティンの真髄と言える内観となっています。入居者の皆様をご新居へお迎えして、この感覚をご自身で体験していただけることを嬉しく思っています。」と期待を募らせます。

G&G Business Developmentsの最高経営責任者（CEO）ジャーマン・コトーは、「本日この重要なマイルストーンを達成し、自然環境を保護・尊重しながら人々の生活の向上に貢献し、マイアミの街にプラスの効果をもたらすこのプロジェクトを完遂できたことを、家族と共に誇りに思います。私たちの卓越性を追い求める情熱と美しさへの愛は、マイアミのスカイラインを新たに彩るアストンマーティン・レジデンスに完璧に反映されています。」と語っています。

また、BMAのプリンシパル・パートナーであるロドルフォ・ミアーニは、「本プロジェクトの構想が始まって以来、全てが次々と形になっていく様子は華麗でした。アストンマーティンおよびG&Gチームと共に取り組む中で、我々のビジョンは進化を遂げ、マイアミの美しさを際立たせる建築としての最高傑作を生みだしました。建築の世界と自動車産業の今回のコラボレーションは、デザインと細部へのこだわりの崇高な融合を建物の随所に反映することを実現した理想的な協体制でした。」とコメントしています。

特注のアストンマーティン・ハンドルのドアや、ナンバープレート、ケストラルタンレザールのドアタブなど、建物の随所に装飾が光っています。入居者は玄関からすぐの場所にある、アストンマーティンが丹念に設計した42,275平方フィート（約3,927平米）の極上の「スカイアメニティ」でリラックスすることができます。

建物の52階から55階の4フロアにかけて 記念碑のようで印象的なガラスの階段でつながったひとときを引くアメニティスペースには、大西洋の壮大な眺めが楽しめる2フロアのフィットネスセンター、アートギャラリー、シネマ、フルサービスを提供するスパ、ビューティーサロン、理容室が完備されています。

コンドミニアムの中心である55階には、ビスケーン湾、大西洋そしてマイアミの煌びやかな街並みが見渡せる洗練されたインフィニティ・プールが設けられています。このフロアにはプールデッキやカバナが備えられていて、ラグジュアリーなスカイバー&ラウンジ、そして最新式のキッチンとプライベート・ダイニングルームがあります。

マレク・ライヒマンは、「曲線的なガラスと鉄筋を使用した66階建てのアストンマーティン・レジデンスは、ニューヨーク市より南の地域で最も高い住宅用のビルです。外観デザインはアストンマーティンが誇るウルトラ・ラグジュアリー・ハイパフォーマンス・スポーツカーのドラマティックなラインへ敬意を示しています。アストンマーティンは伝統的なクラフトマンシ

ップとデザインの美しさの融合に定評がありますが、私たちは期待を超える、合理的で、考え抜かれたデザインを追求しています。常に限界を押し広げることこそが、デザインに対する私たちの理念です。挑戦し続け、決して満足しないことが大切なのです。」と語ります。

同開発プロジェクトには7戸のペントハウスが設けられており、その全てにプライベートプールと広大なテラスが備えられており、1ベッドルームから5ベッドルームまでの住宅やデュプレックスが幅広く用意されています。その中でも最高級のトリプレックス・ペントハウスは3フロアから成る豪華なコンドミニウムで、最上階に27,191平方フィート（約2,526平米）の居住スペースが設けられており、入居者専用のヨットハーバーから光り輝くターコイズブルーのマイアミの海へ直接アクセスすることができます。

### 入居者専用のインテリアデザインコレクション

アストンマーティンの伝統技術を自宅にも取り入れたいと希望する入居者には、アストンマーティン・レジデンス・マイアミの入居者のためだけに入念にデザインされ制作された、3タイプのカスタムメイドのインテリア・コレクションが用意されています。

「Timeless」コレクションはクラシックなアストンマーティンらしいデザインを象徴しており、英国のウルトラ・ラグジュアリー・ブランドの伝統を土台として、コンテンポラリーなスタイルを作り上げたものです。「Covert」コレクションはダークカラーの自動車のインテリアからインスピレーションを得たものです。さらにハイグレードなインテリアを求める方には「Indulgent」コレクションをお勧めします。ソフトで落ち着いたカラーパレットと天然素材を使用し、ドラマティックな雰囲気を演出します。

インテリアデザインのコレクションをセレクトすると、BMAの主任建築士がオーナー様と密に連携を取りながら、セレクトしたコレクションを居住スペースに展開していきます。これにより、アストンマーティンのオーナーおよび入居者が自宅に帰ってもエレガントな旅を続けることができるようサポートします。

アストンマーティン初の住宅用不動産開発プロジェクトの完成に続いて、同ブランドは住宅用不動産開発の最新のデザインプロジェクトを世界各地で展開し続けています。ニューヨーク州ラインベックの個人邸宅シルヴァン・ロックや、アストンマーティンがアジアで初めて手掛けるデザインホームである№ 001 Minami Aoyamaなどがその一例です。

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-3BW4SkawCI>



## アストンマーティン・ラゴндаについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって1913年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、Vantage、DB12、DBS、DBXに加え、同社初のハイパーカーであるValkyrieなど、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、Racing. Green.サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、アストンマーティン初の世界でもっともスリリングで魅力的なハイパフォーマンス・バッテリー式電気自動車の2026年発売を目指しています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴндаは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界56か国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。同社は、2030年までに製造施設をネットゼロにする目標を掲げています。

ラゴндаは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。

## アストンマーティン・レジデンス・マイアミについて

世界的な不動産デベロッパーG&G Business Developmentsが開発した高級住宅タワーです。マイアミ川とビスケーン湾が交わるマイアミ・ダウンタウンのウォーターフロント、300 Biscayne Boulevard Wayに位置します。このプロジェクトは、アストンマーティンにとって初の不動産事業であり、ブランドの象徴であるアストンマーティンの高級住宅デザインへの進出を意味します。Reuelta ArchitectureとBodas Miani Angerが設計した66階建ての船の帆の形をした印象的なタワーは、391戸の高級住宅とペントハウスとなっています。

<https://www.astonmartinresidences.com/>

## G&G Business Developmentsについて

マイアミに本社を置くG&G Business Developmentsは、コトー・ファミリーの主要メンバーによって設立・経営されています。同社は、デベロッパー、オーナー、投資家として、グローバルな不動産市場で急速に成功を収め、この競争の激しい市場に先見的なビジネス戦略をもたらしています。財務の強さと安定性で知られるG&Gは、最新のテクノロジーと妥協のないデザインをミックスさせた革新的で豪華なプロジェクトの開発に力を注ぎ、長期的な価値を持つユニークな住宅や事業用不動産を創造することで、卓越した成果を上げています。



[www.astonmartin.com/media](http://www.astonmartin.com/media)

メディア問い合わせ先：

Aston Martin Lagonda  
Head of Regional Marketing & Communications-Asia Pacific  
有澤 久美子

[kumiko.arisawa@astonmartin.com](mailto:kumiko.arisawa@astonmartin.com)

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 御園生資己：090-8063-7117

[astonmartin-pr@pjbc.co.jp](mailto:astonmartin-pr@pjbc.co.jp)